

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『 21世紀型“さとうみエコシステム” 』

活動団体の活動地域：広島県江田島市

活動団体名：一般社団法人フウド

中間支援主体名：一般社団法人HLL

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	一般社団法人フウド	
活動地域	広島県江田島市	
専門性・強み		
#フウド=風海土 #ぶれないミッション #江田島のまちづくり団体 #移住定住 #島外とのつながり #行政とのつながり #ステークホルダーとのつながり #さとうみづくり #海ごみ問題 #ビーチクリーン #企業研修 #コミュニティづくり #地域交通 #人材育成 #どこまでできるかやってみる		

団体概要
「誇れる風土を次世代に」をミッションに掲げ、江田島市を中心とした広島湾周辺地域の風土を生かした活動を通じて、地域の活性化に寄与し、次世代に誇れる文化を創造していくことを目的としています。
  

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	一般社団法人HLL
活動地域	広島県
専門性・強み	
#共創 #地域課題解決 #知る→深める→カタチをつくる #中間支援 #伴走支援 #まちづくり #豊富なソーシャルキャピタル	

団体概要
広島をフィールドとし、多様な人と人とのつながりや、分野や業種を越えた共創活動により、地域・行政・企業等の課題解決に取り組むことを目的とした団体です。同じ志を持つ社員、自営業者、社会起業家、フリーランス、市民団体など多様なバックグラウンドを持つメンバーを中心に、様々な自主プロジェクトや、企業・行政・団体等との連携プロジェクトを推進しています。

活動団体と地域の紹介

一般社団法人フウド



【目的】

江田島市を中心とした広島湾周辺地域の風土を生かした活動を通じて、地域の活性化に寄与し、次世代に誇れる文化を創造していく

「誇れる風土を次世代に」をミッションに、
2018年11月に設立

- ◆ 移住定住促進:江田島市への移住相談対応、空き家バンクの運用
- ◆ コミュニティづくり:コミュニティスペースの運営
- ◆ 観光事業:観光商品の造成・催行(旅行業登録済)、観光イベントの企画運営
- ◆ 企業誘致:都市部企業の誘致のための情報発信及び視察対応
- ◆ 人材育成:企業や団体の研修受け入れ
- ◆ 海づくり事業:海岸清掃活動、海洋教育、普及啓発
- ◆ 情報発信:まちづくりに関する各種情報の発信



江田島市



協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま

【概要】

広島湾に浮かぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々からなる。広島市や呉市からは6つの航路、呉市からは橋でもつながっており、半島地域として広島都市圏、呉都市圏の機能を分担できる位置関係にある。

【人口】

20,996人
毎年500人以上(人口の約2.5%)減少

【主要産業】

- ◆ 水産業
- ◆ 造船・製造業
- ◆ 農業

【地域資源】

- ◆ 水産資源
 - ・ カキ
 - ・ 海産物
- ◆ 農産物資源
 - ・ オリーブ
 - ・ 柑橘類
- ◆ 環境資源
 - ・ 自然、教育資源(里海学習、海ごみ清掃)
- ◆ 観光資源
 - ・ アグリツーリズム
 - ・ マリンスポーツ
 - ・ サイクリング
 - ・ トレッキング
 - ・ 史跡



1.活動団体の目指す地域の姿

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の

姿 21世紀型“さとうみエコシステム”

古くからの営みと新時代の社会経済の組み合わせによって里海の風土と生態系がより良い状態で循環し続けるとともに、人材の還流と経済の循環によって適切な人口構造が保たれる、自然にとっても人にとっても幸福度の高い島

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

域内外の多様なステークホルダーが連携・協働を図り、自立分散型の持続可能な地域づくりを進めることが重要。事業実施主体を伴走支援する組織と事業を審査し投資する機関を構築し、域外からの資金獲得、人づくりと仕事づくりの好循環を目指す。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

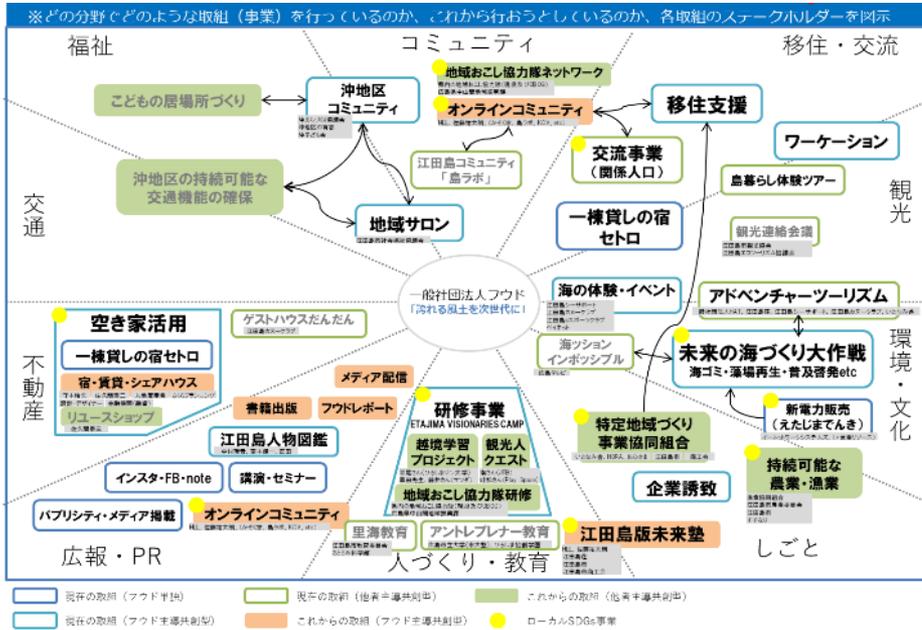
- ①風海土をつくりつなげていくための基盤となるフードバンク事業
- ②豊かな海づくり事業
(未来の海づくり大作戦)

■地域の現状と課題

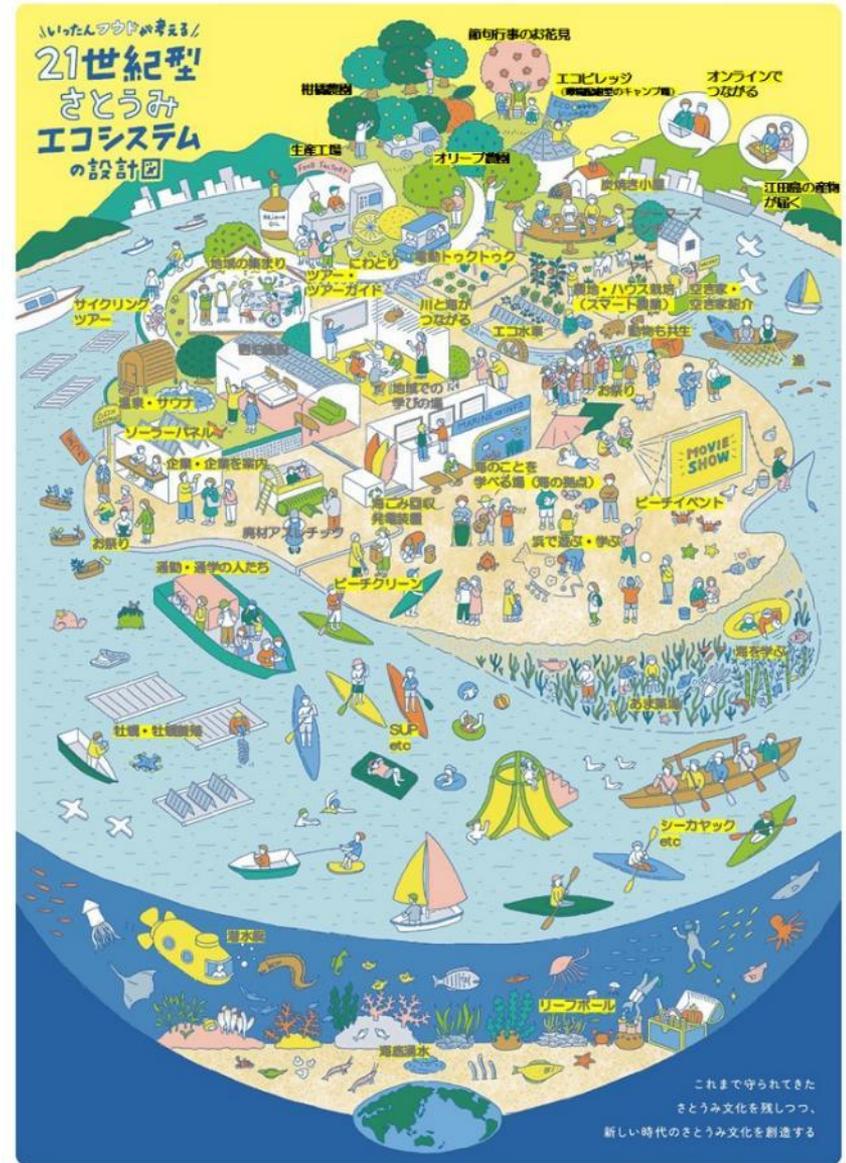
- ・ 観光等での消費は流入も、投資と経常収支では流出が顕著
- ・ 移住者等、飲食店や宿泊施設を開業する個人や事業者の増加。市、初の社会増
- ・ まちづくりの動きはあるものの、各ステークホルダーの横の連携が不十分
- ・ 市を挙げての里海学習の推進（必修化）、海岸清掃を行うボランティア団体や個人の増加
- ・ 豊富な水産資源、主な域外所得となる造船業や水産業が強みであるが、海ごみやCO2排出量の問題も。
- ・ コロナ禍を経て回復傾向にある観光業
- ・ とどまらない人口減少と少子高齢化

現時点のマングラ

【R6暫定版】



《《対内的ツール》》



《《対外的ツール》》

“地域プラットフォーム”のイメージ

①直近で目指す形

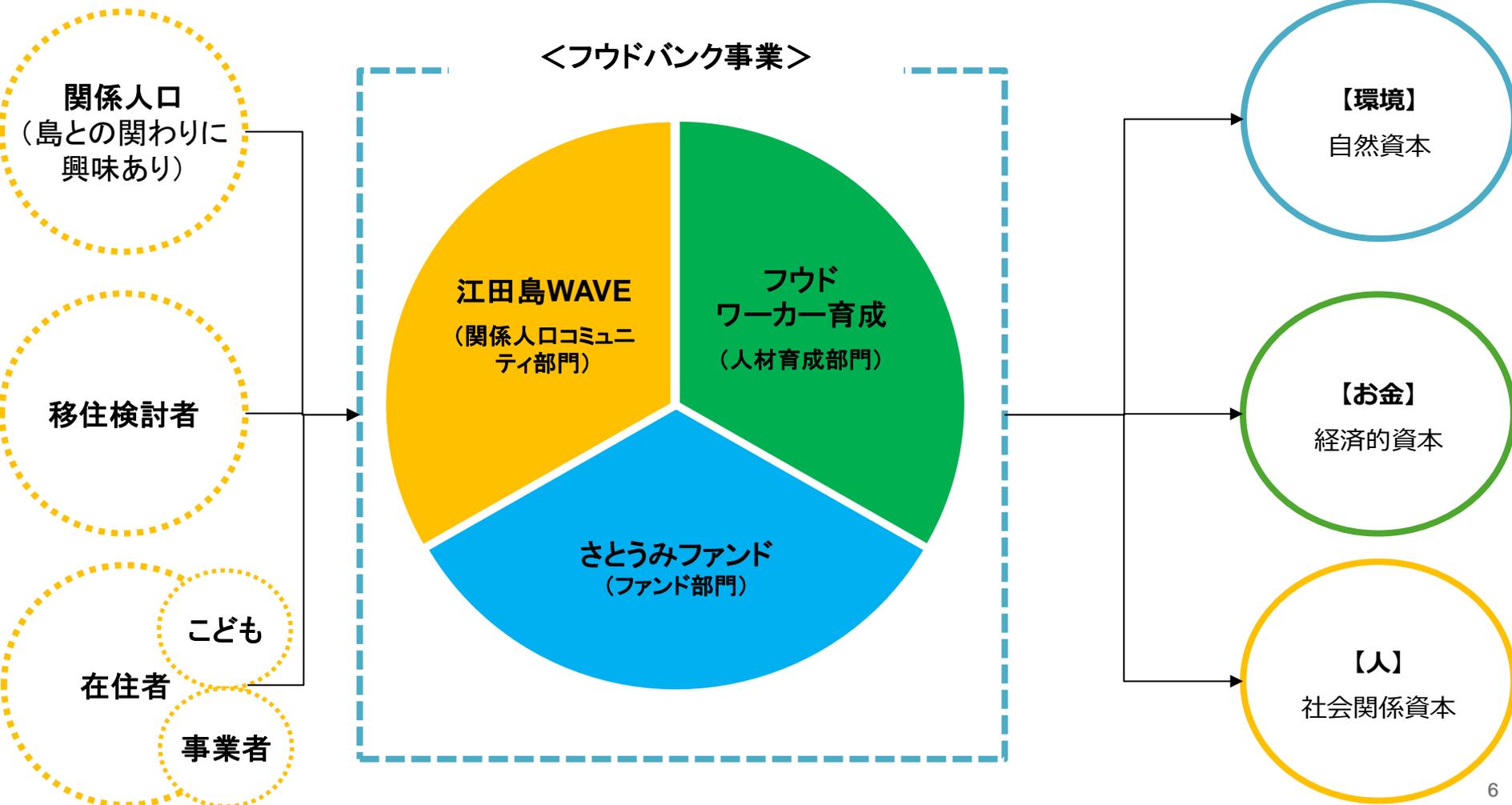
- ・外×内・内×内がゆるやかにつながり、風土をつくりつなげていく事業・活動が生まれ広がっていくためのソフトなインフラ機能を構築する

《対象》

《活動的基盤》

➡ 事業／活動

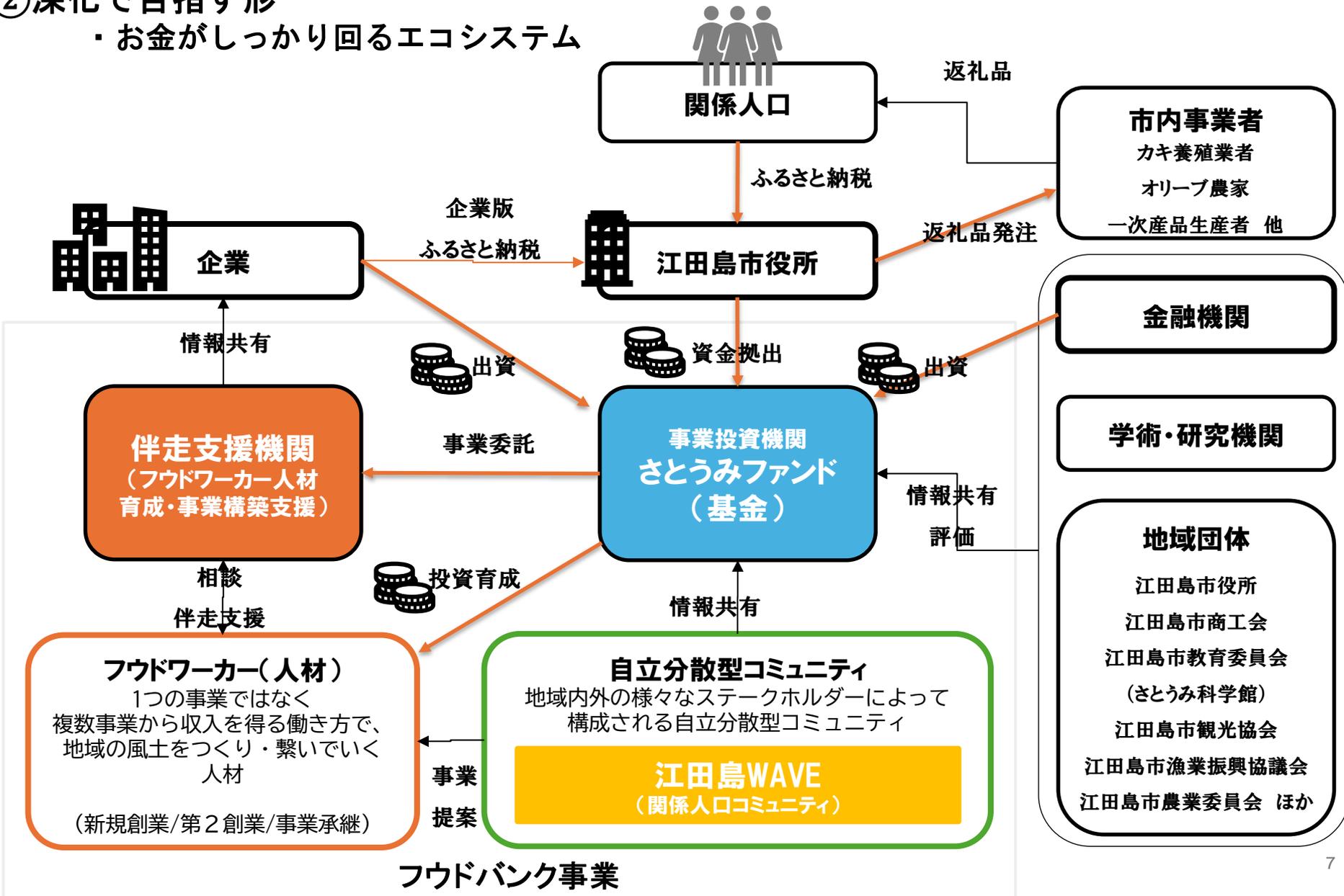
《資本》



“地域プラットフォーム”のイメージ

② 深化で目指す形

・ お金がしっかり回るエコシステム



“地域プラットフォーム”のイメージ

③ ロードマップ（実現へのステップ）

<私たちのミッション>

島の人(=土)たちが、
外の人(=風)とともに、
豊かな海と人の流れと仕事をつくり、
環境と経済と社会が
幸せに回っていく仕組みをつくる

<バリュー(大切にすること)>

- ・軽やかに、おもしろがる
- ・外貨を稼ぐ
- ・巻き込んでなんぼ
- ・自分のため、その先に地域がある
- ・仕事をつくり、人を呼び育てる

◆ありたい姿：
21世紀型さとうみエコシステム



◆活動／事業づくり

- ・地域の風土をつくり・繋いでいく仕事(事業)づくり
- ・多様な人たち(島の内外の人)と
- ・多様なリソースをむすびつけながら
- ・多様な主体が動き出す



◆活動的基盤づくり(=フードバンク事業)



- ・外貨獲得・資金循環 → 基金の設立・運営(さとうみファンド)
- ・関わる人の数を増やす → 関係人口コミュニティの運営
(旅するえたじま会議/江田島WAVE)
- ・地域資源活用・事業創出の支援
→ フードワーカー人材育成事業

◆理念的基盤づくり(思い、アイデアの棚卸)

⇒ いったんビジョン、ミッション、バリューの可視化

◆現状

ローカルSDGs 事業の詳細

事業名称：フードバンク事業		
あらすじ		
江田島市では、地域資源を活用して社会課題を解決するプロジェクトに取り組む人が増えているが、連携できる団体や人材の不足、資金問題などが進捗を妨げる要因となっています。一方で、江田島市周辺や他地域には応援したいという人が多く存在し、まちづくり団体などはつながりがあるもののその気持ちを活かす機会が十分にあるとは言えません。そこで、関わりたい人たちが持つリソースを集め、江田島のプロジェクトと結び付け、推進する仕組みとして「フードバンク事業」を進めていきます。この仕組みは、江田島において、資金や人材などの必要リソースを集めて課題解決に向けた事業・活動を創出し続けるための活動的基盤となることを目指します。		
ストーリー		
江田島市には地域の資源を生かして、社会課題を解決するようなプロジェクトに取り組もうとしている人が増えています。しかし、少子高齢化の進む江田島ではプロジェクトに取り組もうとしても連携協働できる団体や人材を十分に確保できなかったり、資金的問題、進め方がわからない等々なかなかプロジェクトが進まないという状況もみられます。一方、広島市をはじめとした江田島市周辺の地域、あるいは関東圏・関西圏には地方を応援したい、何かプロジェクトに関わりたいという思いを持った人も多く見受けられます。そこで、（一社）フードや（一社）HLLという島と街のまちづくり団体が協働し、江田島と広島（をはじめとした各地）をつなげ、ヒト・カネ・モノ（場所）・情報・ノウハウ・ネットワーク・マネジメントなどのリソースを集め、課題解決のために必要なリソースを組み合わせ投資（コーディネーション）していく銀行のような仕組み「フードバンク」をつくります。単に江田島で新しく何かしたい人、既に取り組んでいるが伸び悩んでいる団体・事業者、事業承継に課題を抱える事業者を支援するのではなく、「地域の、風海土をつくりつなげる仕事＝フードワーク」とし、その趣旨に沿う動きに伴走しながら、関わりたい街の人や島の人の力を活かし、地域資源を生かし社会課題を解決する中で風海土を生み出し・守り続ける動きを定着させ、江田島ならではの持続可能な地域づくりを目指す。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありたい未来	江田島市と広島市（全国および各地）をつなぐ関係人口コミュニティが形成され、島と街の人々が協働して社会課題を解決するプロジェクトを後押しするファンドが生まれ、風海土（フード）をつくり・つなげていく仕事と担い手が生まれる。江田島市が「新たな挑戦の場」として多くの人を引き寄せる地域となります。	<p>（1）3つの新規事業を立ち上げるため、現時点の構想・アイデアを現実に落とし込むための各種検討作業やその結果をまとめる事務作業が見込まれる</p> <p>（2）3つとも、種類が異なるため、それぞれの特性に合わせた専門家と、推進者側の柔軟な対応が必要となる</p> <p>（3）補助金や助成金ではなく、売上などの自己財源などの資金計画も盛り込んだ、持続可能性を念頭に置いた事業デザイン</p>
② 課題	プロジェクトを立ち上げたい江田島の人とプロジェクトを支援したい街の人のマッチング機会及びプロジェクト創出機会を生み出す	
③ なぜこの事業をやるのか（Why）	江田島市の社会課題解決を加速し、地域の持続可能性を高めるため。外部人材と地域住民をつなぐことで、学び・刺激し合う新しい関係性を構築・維持しながら、都市と地方の交流を活性化させ、不足するリソースを補い、地域資源を生かした新しいプロジェクトを継続的に創出するため。	
④ 地域資源	地域内外で活動する刺激的な個人・団体、すでに進行中のプロジェクト	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容（What）	<p>（1）【関係人口コミュニティの形成・運用】江田島WAVE：定期的に江田島市と広島市を行き来し、地域と都市の人々がつながる場を創出。</p> <p>（2）【事業投資機関・コミュニティファンドづくり】さとうみファンド：江田島の地域課題を解決する新規事業創出や既存事業への資金支援</p> <p>（3）【仕事創造・人材育成】フードワーカー人材育成：江田島でフードワーク（仕事）を生み出し担う人材を育成する。アイデア段階から事業化まで伴走支援を行い、地域課題を解決する仕事・事業を具体化する。</p>	
⑥ 担い手（Who）	一社フード及び株式会社E.S CONSULTING GROUP	
⑦ 事業で生じる循環	<p>ヒト：都市部人材が江田島に訪れ、島人材とプロジェクトを協働する。</p> <p>カネ：コミュニティファンディング、企業のCSR・IR協賛、ふるさと納税などで資金調達</p> <p>コト：イベント・ワークショップ子ども、関係人口と地域住民が協働</p> <p>シゴト：江田島の資源を生かした事業が生まれ、そこに担い手が生まれる。</p>	
⑧ 事業で生じる成果	江田島市の社会課題に取り組むプロジェクトの創設・推進。関係人口の増加、地域経済の活性化。参加者の学びや経験の共有を通じた新たなビジネス・事業の可能性の拡大。これらの効果を持続可能にするための基盤整備。	

ローカルSDGs 事業の詳細

事業名称：未来の海づくり大作戦		
あらすじ		
瀬戸内海の環境問題が深刻化する中、広島県江田島市では「江田島未来の海づくり協議会」が設立され、産官学連携で環境保全に取り組んでいます。ブルーカーボンプレジットや企業の環境経営を促進するIR協賛、ふるさと納税を活用し、藻場の再生、海ゴミ対策、エコツーリズムを通じ、市民や企業が参加する里海づくり活動を拡大。環境保全と地域経済活性化の両立を目指しています。		
ストーリー		
膨大な海洋ゴミ、海水温の上昇、磯焼け、海洋生物の減少、貧栄養化、堆積超過する牡蠣殻の産廃、水産業の衰退。瀬戸内海を取り巻く環境問題は年々深刻になっています。環境面で瀬戸内海を凝縮したような特性を持つ江田島市と周辺の海域でも同様の現象にある中、地域内外の里海ステークホルダーたちが連携協働して、この環境問題の解決に取り組みはじめました。産官学連携の組織「江田島未来の海づくり協議会」によって牡蠣殻を活用した藻場増殖プロジェクトによって、江田島市周辺の海域でアマモ場やガラモ場をどんどん増やしていきます。それによって藻場をゆりかごとしている里海の生き物たちも増え、生物多様性を守ります。また、藻場を増やすことで大気中の二酸化炭素も吸収され、その排出量をクレジットとして広島県内の企業に販売し、資金の循環を生み出します。さらに、ネイチャーポジティブ経営の視点による企業のIR協賛やふるさと納税などによる資金も入り、ますます里海づくり活動は広がっていきます。市民や子どもたち、地域外の人々や企業も参画しながら、藻場の再生活動、里海観察、海岸清掃、海洋観光などを通じて、どんどん輪が広がり、環境と経済と社会の好循環を生み出します。		
	事業の骨子	現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	人々の創意工夫によって海ゴミが減り、藻場が再生し、生物多様性が保たれ、自然も人も共生する豊かな里海環境が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> 市内11の漁業協同組合の理解と協力を得ること 藻場の再生・増殖が成功するかどうか 活動にかかるコストをいかに軽減するか プロジェクトをマネジメントする人材の不足
②課題	瀬戸内海をとりまく膨大な海洋ゴミ、海水温の上昇、磯焼け、海洋生物の減少、貧栄養化、堆積超過する牡蠣殻の産廃、水産業の衰退。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	産業廃棄物となる牡蠣殻の堆積超過と海洋環境の改善の同時解決によって、豊かな里海環境を創出し、自然と人間が共生する島を実現したい。	
④地域資源	牡蠣養殖産業（産業廃棄物となる牡蠣殻の活用） 江田島市周辺海域の藻場、生物多様性及びそこに関わる人々	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> 牡蠣殻を活用した藻場増殖技術を開発し瀬戸内海をはじめ全国の藻場造成事業に普及する。 藻場の再生によりブルーカーボンプレジットを発行し企業に販売する。 里海づくり活動を発信し、企業のIR協賛、ふるさと納税（企業版含む）などの寄附を得る。 里海づくり活動を研修プログラム、観光プログラムとして開発し、団体や個人に提供する。 	
⑥担い手（Who）	江田島未来の海づくり協議会（一般社団法人フウド、(株)ハマダ、ト部産業(株)、Uプロダクツ）	
⑦事業で生じる循環	<p>ヒト（地域内）：島民や島の子どもたちが里海づくり活動に参画する。</p> <p>ヒト（地域外）：地域外の団体・個人が研修や観光として里海づくりプログラムに参加する。</p> <p>モノ：牡蠣殻の再利用、藻場の再生、水産資源の復活とブランディング</p> <p>カネ：ブルーカーボンプレジット、藻場増殖キットの販売益、企業協賛、ふるさと納税、研修・観光プログラム参加料</p> <p>コト：地域内外の人々による里海づくり活動が定常的に続く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内11の漁業協同組合 江田島市（現在も協力いただいているが、もっとコミットしてほしい。） カーボンオフセットやネイチャーポジティブ経営を必要としている企業とのネットワーク プロジェクトを回してくれる人材（プロボノ）
⑧事業で生じる成果	地域内外の様々な人や団体が関わり、自然と人が共生する島として、全国一の里海リテラシーを持った島になる。そのブランドが普及し、域内の人々のウェルビーイング度の向上、域外から関係人口や移住者が増加し、地域としての持続可能性が高まる。	

■2026年度末の状態目標

- 地域循環共生圏を実現するための事業の伴走支援を行う組織と事業の審査と投資をする機関が立ち上がっている状態。
- 上記機関をはじめ、各ステークホルダーも含めた、エコシステムの推進体制（＝プラットフォーム）が構築されている。
- ローカルSDGsとなる事業が3つ以上実証段階に入っている状態。

■2025年度末の状態目標

- 地域循環共生圏を実現するための事業の伴走支援を行う組織と事業の審査と投資をする機関の立ち上げ準備が整っている状態
- 各ステークホルダーとビジョンが共有され、エコシステムの推進体制構築に向けて準備が整っている状態。
- ローカルSDGsの事業計画が完成している状態。

■2024年度末の状態目標と振り返り

- 地域のビジョンが可視化され、ステークホルダー間で共有されている状態。
- ステークホルダーの構造が可視化され、プラットフォームのあり方が言語化されている状態。
- ローカルSDGsの事業構想が練られている状態。

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての獲得目標

・前年度の取組＝話し合う→やりたいことを棚卸→言語化・視覚化
中間支援主体にとっては、比較的得意な支援分野→今年度は、構想をカタチにしていくフェーズ。
しかし、事業化は苦手な支援分野。

①活動団体の力を引き出す関わり

：得意な伴走支援を軸にしながら、俯瞰的な視点よりも団体と同じ視点で、事業を考え動いていく
(目となり、手となり、足となり、頭脳となって、一緒に考えながら、動く)

②やってみる

：PBL [ProjectBasedLearning] 話し合い、仮説をつくり動きながら、気づき、学び、整えていく

③積極的に学ぶ

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

・活動主体への伴走支援をベースにしたオーダーメイドの地域づくりを推進する団体となる。

そのために、本事業を通じ、得意／不得意に関わらず挑み、なんとかしていく力と経験を得る。

・本事業を通じて得た経験や手法を言語化したり、体験を共有化しながら、中間支援に必要なマインド・スキルや、進め方や有効なプロセス・ツールの考え方・作り方を整理し、そのノウハウを他の人たちに展開していく。

・活動主体への支援者という受動的な立場だけではなく、その地域の持つリソースを集めプロデュースするような、積極的な役割も果たせるような視点や経験を提供していく。

・地域循環共生圏をベースに、本事業を通じて生まれてきた「風海土（フウド）づくり」のコンセプトを加えた形の地域づくりを進めていきたい。

中間支援主体の支援・取組計画

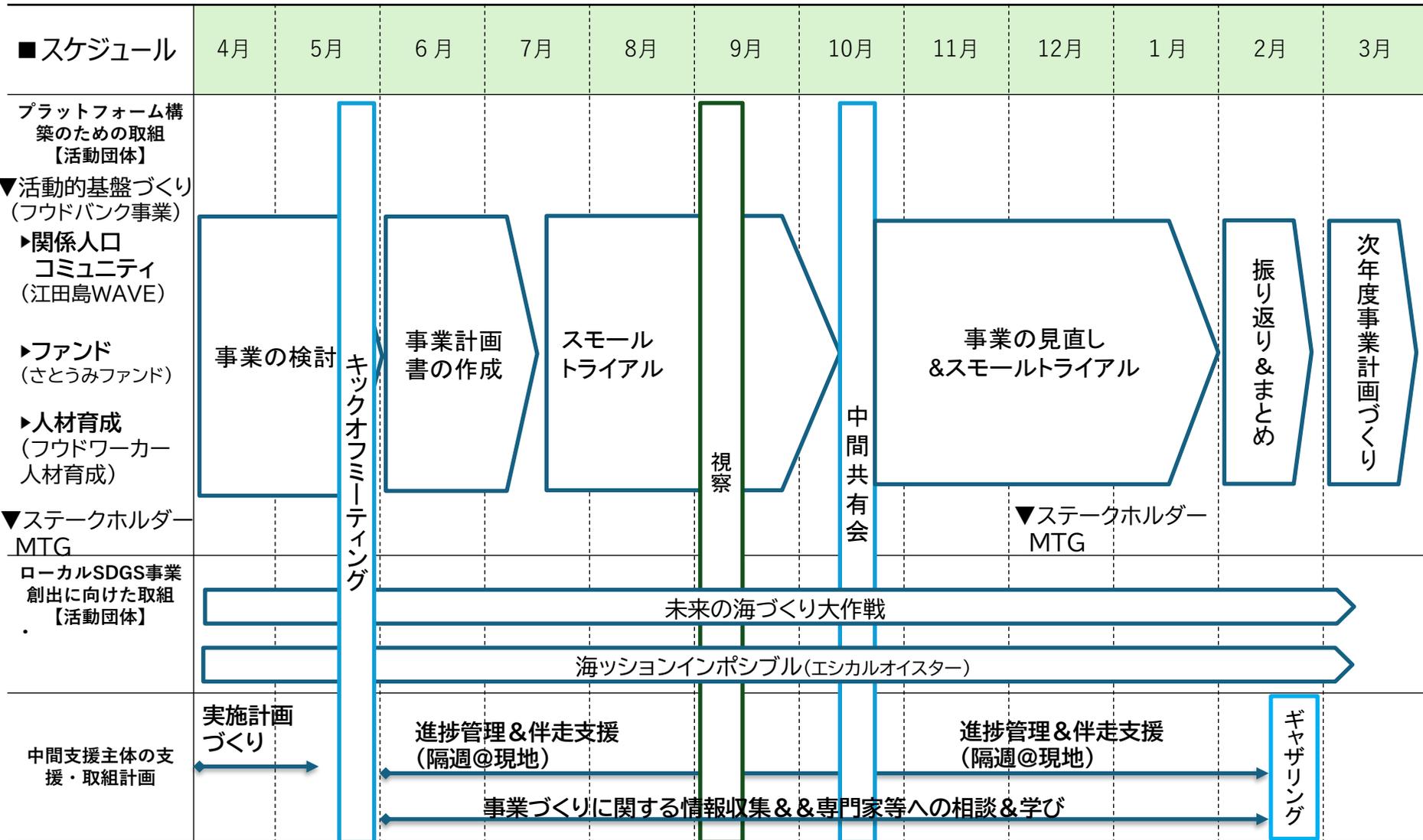
■中間支援主体の1年間の支援目標

- ・地域の地元のプレイヤーとともに自然・経済・社会の問題を同時解決しながら進めるオーダーメイドの地域づくりに応えられる中間支援主体を目指す。
- ・事業づくりとその推進がテーマとなり、いかにカタチをつくり、実績として見せていくことができるかが重要となる。必ずしも得意な分野とは言えないため、そのあたりのノウハウを持つ専門家と協働し、学びながら、現在の取り組みにスムーズに結びつける役割と事業推進を果たしていきたい。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	これまで取り組んだアイデアの棚卸やコンセプトづくりは基盤として必要である一方、注力し続けると関係者の熱が冷め、推進力がそがれてしまう懸念がある。	<ul style="list-style-type: none">・事業を動かし実体をつくり、内外にそれを見せていき、取り組みの意味を実感・共有する。・社会的価値との関連が強い事業（海づくり）については伴走支援できる一方、経済的価値を出していくことが求められる事業づくりについては、専門人材を早くから組み込み本事業全体の推進力が落ちないようにする。
②	今年度は、今後の江田島の地域づくりの活動的な基盤をつくるフードバンク事業を形づくるのと並行して、ローカルSDGs事業も動き出すため、事業推進力が必要となる。活動団体は、事務局機能を果たすことが求められるため、そのための支援も重要となる。	昨年度以上に活動団体との距離間を近くし、直接コミュニケーションをとる機会を密にすることで、事業推進における伴走支援を強化する。また、フードバンク事業では、活動団体だけでなく中間支援主体からも積極的に事業計画づくりに手を動かし、仮説づくりや試行を活動団体とともに推進する。

活動・支援スケジュール



備考 (補足説明など必要な場合は記載)

★ステークホルダーMTG (他事業との兼ね合いで、効果の高い時期・方法を検討する)

・活動的基盤 (=フードバンク事業) に重点 ・PBL (ProjectBasedLearning) でやりながら進める